

取組名称	主体性が拓く持続可能な未来づくりを 初等教育から挑戦するSDGs×地域・企業との協働実践			団体設立後の 経過年数	71年
応募取組主体名称	学校法人国本学園 国本小学校	活動地域	東京	応募取組の 活動年数	5年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境いづきり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への思いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025いのちの動的平衡賞				



取組の要旨

本校では、持続可能な社会を担う人材の育成を目指し、探究学習に加えて、子どもたち自身が発案するプロジェクトを中心とした課題解決型学習を毎年テーマを変えて実践している。今回の取組では、身近な生活用品の資源循環を切り口に、CO₂排出量削減やサーキュラーエコノミーの実現に向けた活動を、数多くの企業や地域社会と連携して展開した。その過程で、子どもたちは社会課題を「自分ごと」として捉え、発案したプロジェクトを通して多くの人々の意識変容・行動変容を促した。このように、子どもたちが主体的に環境問題を学び、未来の社会の創り手として歩み出すことこそ、環境意識の高い世代を形成し、持続可能な社会の実現に直結すると考えている。

実績の要旨

これまでに回収した資源は合計1万点を超え、そのうち約5,000点の子ども服や古本をリサイクルした結果、新規製品の製造過程で排出されるCO₂を約76,850kg削減することに貢献した。活動には15社以上の企業、100店舗を超える地域商店街、学園関係者、NPO、公的機関などが参画し、2023年度だけで5,000名以上、活動開始以来では延べ11,000名以上が賛同・協力している。子どもたちの主体性から生まれたプロジェクトは、環境・経済・社会の好循環を生み出し、学年や地域へと意識変容の波を広げている。こうした実践は、VUCA時代を生き抜くための「生きる力」を持続的に育み続けている。

取組評価の要旨	環境への貢献	子どもたちの発案によるプロジェクトで、身近な生活用品1万点以上を資源循環。CO ₂ 排出量約8tの削減に加え、宣伝広報用B4用紙約1800枚の節約を実現し、環境負荷低減に寄与した。
	社会・経済への貢献	日本や企業の環境保全・SDGsの取組を学習しながら、大手企業17社と地域社会と連携して資源循環を実践。初等教育段階から体験的に学ぶことで、子どもたちの主体性・行動力・発想力・リーダーシップを育み、将来グローバルに活躍できる人材育成にもつなげている。
	地域資源の活用	喜多見商店街振興組合と連携し、加盟する100店舗以上が協力。地域住民への広報活動を重ねることで、年々協力者が増加し、地域全体の意識変容・行動変容へと広がっている。
	普及・汎用性	環境教育を軸とした課題解決型学習であるため、教育カリキュラムとの親和性が高く、地域や学年を問わず応用・展開が可能である。また、企業の社会貢献活動をプロジェクトに組み込み協働することで、企業の参画価値が高まり、他校でも再現可能である。
	革新・ユニーク性	資源循環を単なる回収や再利用にとどめず、「循環に入る前に価値を創造する」という発想から、子どもたちは家庭で不要になったものを活用して人を笑顔にする「くにもとえんにち」プロジェクトや、古本を原料とした紙漉きプロジェクトを立ち上げた。発案から企画・実行に至るまで子ども自身が主体的に進めたことは、「自ら考え、形にする力」を育む教育実践そのものである。
	継続性	プロジェクトのテーマは子どもたちの関心に応じて毎年更新され（例：2023年サーキュラーエコノミー、2024年フードロス、2025年森林再生、2026年酪農）、常に発展性を持たせている。一方で「資源を大切に、人と人をつなぐ」という理念は次学年に引き継がれ、学年を越えて活動が持続している。さらに、地域商店街や企業との連携体制が整っていることで、学校の枠を超えた継続的な活動の仕組みが確立されている。

展望の要旨

本校を拠点に、地元の小中学校や商店街、企業、大学、行政、NPO、メディアと連携し、大きな循環サイクルを確立すること、さらには、この経験を通じて子どもたちは自由な発想からプロジェクトを自ら動かす力「主体性」を育み、こうした人材を継続的に輩出していくことを目指す。